

令和6年度

自己評価・学校関係者評価

星和台幼稚園

令和7年3月27日

本園の教育目標

◎理想の幼児教育を目指して子どもの成長と共に広がる幸せな世界を作り出します。

○伸びやかで明るい健康な子ども

●子ども一人一人の個性を大切にする

○感受性豊かなやさしい子ども

●絵本を通して豊かな感受性を育てる ●友達との遊びを大切にする

○よく考え工夫する子ども

●物を大切にして自分で考え工夫する子どもを育てる

○根気よく努力する子ども

●自然に触れる経験の場を大切にする ●思いやるやさしい心を育てる

今年度取り組む課題

《今年度課題》

- 1・今年度は4人の新人を迎え互いに学び合いながら活気あふれる子ども真ん中の園づくりを行う。
- 2・個別の教育支援計画を保育に活かすためにケース会議や研修を行う。
またその会議結果や研修内容を補助教員とも共有し教育を一本化して前に進めていく。
- 3・子どもの在籍人数確認の徹底。安全管理の徹底。情報共有。緊急時対応のシステム化
- 4・園の理念理解 行事などを行うとき教育的意義を考察し全学年をとおして軸とし年齢相応に沿った計画案をたて進めていく。

1・課題：今年度は4人の新人を迎え互いに学び合いながら元気あふれる子ども真ん中の園づくりを行う。

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
1	<p>今年度は4人の新人を迎え互いに学び合いながら元気あふれる子ども真ん中の園づくりを行う。</p> <p>新人教諭の声を活かそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノが心配 ・日案とは何を書くのか ・1人では心配 ・補助教員のどのように指示を出せばいいのかわからない <p>先輩教諭の声を活かそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの様にサポートすれば指導が一本化するのか ・伸び伸びと保育を楽しんでもらうには ・保育状況及び保護者との関わりを把握するには 	<p>互いの考えは異なる様で同じと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任教諭が日案をたて全員に配布園の方向性を全職員で学び合い日誌として記入する事で教育や園の目標を一本化。各クラス教育の差をなくす ・ピアノは経験者がフォローしている間にゆっくり練習する。 ・補助教員のサポート内容を日案に記入 ・抱えている仕事内容は把握 ・連絡帳や電話の内容確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任の書く日案に沿って教育目標をはっきりと理解し統一した所作で行事だけでなく毎日のルーティンを把握し行動できた。 ・年少組は異年齢交流を含め年長と年長担任が保育に入り一緒に保育を行った。年少組は保護者にも主任がサポートに入る旨を伝えた。ピアノは主任が弾く。新人の先生はメロディーを耳慣れさせながら練習をしていく。 ・誕生会は主任が司会を行い園内研修としてそのパフォーマンスを各クラスに反映する。 ・発表会は学年ごとに行いBGMなどはやはり子どもに合せたいことからピアノやエレクトーンを使用するが担任は携わらない。 <p>等大きな改革をおこない『ねばならない』を止め一番いい方法を考え実践した。</p>
<p>反省と成果および課題</p> <p>新人も経験者も取り残さず寄り添う事が主任の役割ととらえ、今まで後輩職員に任せていた仕事を先輩職員と共に行ってみた。今まで見えないものが見えてきた。『ねばならない』で後輩に任せて来たものを先輩は意欲的に行う。しかし過去を知らない後輩たちにとって『しなくてよい』のとらえ方が先輩とずれフラストレーションを生んでしまっていたことに関しては言葉を費やし互いの思いを互いに伝え続けていくことが大切と思われた。 お互いになだめ合うような関係にならない様心理的安全性について研修を受けた。</p>			

2・ ・個別の教育支援計画を保育に活かすためにケース会議や研修を行う。

またその会議結果や研修内容を補助教員とも共有し教育を一本化して前に進めていく。

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
2	<p>・個別の教育支援計画を保育に活かすためにケース会議や研修を行う。</p> <p>またその会議結果や研修内容を補助教員とも共有し教育を一本化して前に進めていく。</p>	<p>・教育支援計画は特別支援コーディネーターが担任と計画支援計画を保育の内容に応じて日案に記入。</p> <p>サポート内容こそ支援計画の重たるところとなることが多いので補助教員（以下 SST）に配布し実行に向け把握してもらう。</p>	<p>・関わり方の不安や不明な点を全職員から聞き取りを行いその事に特化した物を日案に記入もしくはロープレを行い把握してもらった。</p> <p>・希望的意見を言えずに感情が乱れる様な事が減り新人教諭もどのような依頼の仕方をしていいのかと迷う事も減った。</p>

反省と成果および課題

SST に主任クラスのサポートに入ってもらい主任が各クラスの様子を把握した。その上で新人教諭の悩みに寄り添う事で提案内容も変わってきた。主任教諭がクラス担任である事からその部分を指摘されることがあるので今年は指示を出すのではなく共に考えるスタイルでクラスの個別の教育支援計画を考察できた。特別支援の視点をすべての子どもに向けそれぞれが苦手とする部分にも着眼しどのように導く事が自主自立した成長を促すのかを長期的な視点でまた短期的な視点で検討した。来年度は1学期から行いたいと検討している。

3・子どもの在籍人数確認の徹底。安全管理の徹底。情報共有。緊急時対応のシステム化

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの在籍人数確認の徹底。 ・安全管理の徹底。 ・情報共有。 ・緊急時対応のシステム化 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通りの管理方式を継続 ・安全管理面においての気づきを容易に発信できるフローを作製 ・細かい配慮面の共有をする為保育中のみ閲覧できる情報ツールを検討・施行。 ・システムは作成しているが各自が行動として自主自立し 	<p>本園の管理システムは開園以来アナログではあるが何重にもチェック体制を取っておりコロナ禍の産物としての除菌は一層の確認体制の追加となった今年度も徹底して行う。</p> <p>保育内の情報共有システムはLINEを使用。子育て世代の教諭も形態を携帯する事は必要であり保育中の携帯確認は今や保育中排除せねばならないというスタイルではないと考察した。保護者にも理解を促したうえ</p> <p>常識を統一し形態の確認を安全管理に活かす</p>
<p>反省と成果および課題</p> <p>今までの安全担保の実績を大きく変えることなく反省や発案は時々には討論し今までの安全確認システムを採用していく最後は人だと思われる。どれ程ITの力を導入してもそこに甘えてしまえば同じことと考えている。</p> <p>この年度中北九州市にも地震が発生した。避難訓練としては机上の物として不安がついていた預かり中の地震だった。しかし皆フローの通り連絡し合い行動し十分な避難が行えた。この時の高度を改めて見直し反省しながら多くのタイミングでの避難について検討できた。</p> <p>今後についても具体的に考察していきたい。</p>			

4・園の理念理解 行事などを行うとき教育的意義を考察し全学年をとおして軸とし年齢相応に沿った計画案をたて進めていく。

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
4	園の理念理解 行事などを行うとき教育的意義を考察し全学年をとおして軸とし年齢相応に沿った計画案をたて進めていく。	まずは各自勉強した。 行事のたびに主任がかく日案に教育方針・課題を記入するので理解する。	<p>1学期 これからを注意深く見守っていく為の記録。 各自クラスの子ども達の1日の中で気になる様子を持ち記録した。『いつもと違うな』『成長したな』『なかなか難しそうだあ』気が付いたままの記録。 提出する目的ではなく次の課題やきっかけを見つけるための記録となるようにした。</p> <p>2学期 慌ただしさと共に子どもの過敏さに対して配慮が欠けている様に感じるところへの気づきがあり職員会議や個別指導を行った。</p> <p>3学期 教育理念に沿っているのかを意識した言動が増えてきた。</p>
<p>反省と成果および今後の課題</p> <p>子ども達を真ん中に、丁寧に楽しくと毎日の生活の中で意識して保育尾を行ってきたが経験年スの多い職員がつい作業効率を優先しての言動がある。経験者を招集しての会議を行い互いに振り返り基本理念に立ち返る様努力した。その為に考え方をぶつけ合う事や理解し合う事に時間をかけた場面もあったが心理的安全性を担保し子ども達の心身を一番に考え保育出来た。</p>			

職員評価

評価方法：A（問題なく課題をおこなうことが出来、来年度見直しをしながら引き続き行う）

B（環境的に若干の見直しが必要であるが取り組み自体は問題なく引き続き行う）

C（人為的に見直しが必要である。見直すことで課題に対し良い成果が見込める）

D（大きな問題がある。見直しを迅速に検討する必要がある。もしくは行った。）

学年	職員氏名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	コメント
省略	以下省略	A	D	A	B	コロナ渦での学びが下地となり多くの考察・改善をみた1年であった。充実した一年であった。
		B	B	A	A	作業効率を追っているつもりはないが指摘され我に返るっ状況を自信を律して来年に挑みたい。
		A	C	A	A	上席の先生に意見する事の緊張は尋常ではないが子どもの安全の為に育ちの為に奮闘した。
		B	B	A	A	課題にはないが行事の見直しを行たことは大きな改革で「お試しや1年目支援」ではない実績を上げた。
		B	A	B	A	送迎ミスを様々な先生にフォローして頂き実エラーにならなかった。自身の反省を行う
		B	B	A	A	子ども達の育ちを観察・考察する力を付けたい。
		B	B	A	B	1年目ではあるが受動的すぎた1年を振り返り来年は意欲的に頑張っていこうと思う。
		A	B	A	A	1年の経験でわからない事が分かり始めた。質問して解決したクリアな思考で毎日に挑む。
省略	以下省略	A	A	A	A	補助教員の先生と2×の実績が出せたと思う。心地よいリズム感で仕事が出来た。
		B	A	A	A	運動会・発表会は他者を褒めるのみのアンケートに疑問を持ったがすこぶるよかった。
		A	B	A	A	褒めるのみの反省点は次年度行事案の話し合いで成果を上げると思う。

体調不良により1枚未提出

《次年度課題》

- ◎行事や役員活動について保護者の意見として保護者が活躍しやすい様具体的な内容や指示が欲しいと意見を頂いた。
親子参加型行事を増やすなど検討したい。

- ◎安全管理システム及び避難訓練に防犯対応のシステムについて研修及び見直しからの再構築を行う。

- ◎保育内容について
今年度から行っている『きらぴか DAY』について本格的に内容の検討を行う

- ◎個別支援及び行事の在り方の検討

- ◎SST 及びクラス担任と行事の見直し意見交換会、園の方針理解、各立場にあった園内研修を行う

- ◎職員の働き方を見直しながら保育の質を上げる園内外研修参加に対する対応

第3者評価委員 総評

A

No. 1	A	No. 2	A	No. 3	A	No. 4	A
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

まだジャンパーが脱げない日差しの中、今年度最後の理事会及び第3者委員会を行った。

毎年新しい考えを教育現場に反映させながら活気ある愛ある保育が行われてきたことが見えました。

子ども達の人数減少がその先生たちの頑張りに反映されず反比例していることは非常に残念であり毎年課題として検討すべきである
と考える。知名度は SNS ではなく HP を主体として考察する方がいいととらえた。今年度の実績を期待する。

安全管理や保育の質、不適切保育に関してはこのような呼称ではないはるか昔から星和台幼稚園が大切に考えてきたものと理解して
いる。教職員が入れ替わる事を考え今年度末に在籍職員で話し合いを持ち志気を合わせたことは大切な活動であったととらえてい
る。また今回発表会では学年ごと、担任が子ども達の傍につくという事、その後の反省を互いを褒め合うという今まで見たことのないシステム。このアイデアを一層次年度に反映させるためには次年度の行事案検討会が大きなポイントになるであろうと考察する。

頑張ってください。働き方改革において1年目が多かったこともあり多少バランスを崩したようだが3学期にはいつものペースが整っ
てきたと把握している。今年度も互いに互いを思いやり、より良い働き方を検討するよう依頼したい。

子ども達の心身の命を大切に心理的安全性に関する取り組みは全職員で研修に出るなど十分に理解してほしい。

第三者評価委員

第三者評価委員

令和 7年 3月26日

適正に第3者として評価しました